

講演レジュメ

「日本人の知らない中国の現状」

1. 18大人事を揺るがした二人の幹部の落馬

- 薄熙来事件の詳細。
- 令計画という二人の大物の失脚と左遷から始まった人事の波乱。

2. 政治局から中央書記処への権限移譲

- 李克強が外交を統括。→張志軍と傅榮の報告を一蹴→40年前のウイルス。

3. 人事に前例はない

- 軍委主席辞任はハプニングではない。
- 胡錦濤と政治局委員の面談。
- 習近平の病気。

4. 18大と2013年人事から見る中国の未来

- 実は常務委員のポストは2減ではなく3増。
- 危機感と自信が共存した結果。
- 記念入閣とコントロールタワーの変化。→配布資料から解説
- 人事は派閥ではなく個人利益（横ではなく縦の論理）。→団派、上海閥は鄧小平閥、太子党での分析は無意味。

5. 新政権の最大の問題は格差

- ネット上で「雷十三」、「雷六三」と呼ばれた党幹部の処分。腐敗官僚摘発は痛み止め。

6. 共産党には解くことができない不治の病①

- 共産党は鄧小平以前の価値観には戻れない。

7. 共産党には解くことができない不治の病②

- 国有企业と官僚機構のもたれ合いがそれを阻む。

8. 南方週末事件に見る新しいステージ

- 記者の告発は初めてではない。
- 裏に〈改革共識倡議書〉の存在。
- 戦い方の変化。

9. 人民解放軍

- 海洋・宇宙・サイバーを重視する「局地戦力にうち勝つ能力…。小国の戦い」
- 除隊・退役軍人の就職支援にしっかり取り組む。
- わが国を取り巻く～脅威が絡み合っており。経済建設～進展がみられるよう努めなければならない。
- 予備役含め290万人が彼らの足を引っ張る。「軍事革命が急速に発展している」という世界の潮流にしっかり追いついて…」
- 他国を占領する戦力ではない。
- 日本との戦いの主戦場はバトルフィールドではない。→宣伝戦（「文藝春秋」2月号）